

# いちまい きつぶ 一枚の切符から

やまとこおりやましちょう  
大和郡山市長

うえ だ きよし  
上 田 清



ふね なんば むじんとう く ひと かんが しよくりよう みず  
船が難破し、無人島で暮らすことになった人たちが、まず考えなければならぬのは食糧や水の確保ですが、その前に、たとえば水が湧きで出ている泉につけるとか、みんなが集まる場所に地名をつけることが、実はとても大事だと聞いたことがあります。

たし 確認にそのとおりですね。釣りに行くにしても、「あの辺」とか「あっちの方」ではお互いの意思が通じません。

やまとこおりやまし むかし ち めい えきめい おお わたし せいかつ  
大和郡山市でも、昔からの地名や駅名などの多くが、私たちの生活になくはならないものとなっています。

しかし、なかには命名の由来や背景がいつの間にか忘れられてしまったケースもあり、できるだけ、特に若い人たちにはしっかり受け継いでいく努力が必要ではないかと、考えているところ です。

いくつか例をあげましょう。

さいしょに ほんし きんてつ えきめい こおりやま ば あい いま ねん  
最初に、本市ではJRも近鉄も駅名は「郡山」となっていますが、JRの場合、今から100年あまり前、わが国の鉄道がすべて国有化され国鉄となった時、福島県にも「郡山」があるので「大和郡山」に変更せよと国から強く迫られたのです。しかし、地元の人たちは負けていませんでした。「奈良時代から使われてきた地名を簡単に変える訳にはいかない!」。結果、国側が折れたのですが、今でも本市「郡山」の切符には関西本線を示す（関）、福島県「郡山」の切符には東北本線を示す（北）の文字が添えられています。

切符一枚にも、ふるさとへの思いが込められているのです。



一方、郡山城址の西に「大職冠」という地名があります。バス停もあるので、ご存知の方も  
多いかと思いますが、発音だけで理解すると「大食漢」と勘違いしてしまいそうです。

実は、戦国時代の終わり、郡山城に入り、城の整備や城下町の発展に大きく貢献した豊臣秀  
長（秀吉の弟）は、当時大変勢力が強かった多武峰（現桜井市）の談山神社を郡山に移しました。  
「大職冠」とは大化の改新によってこの位階を授けられた談山神社の祭神、藤原鎌足を指して  
いるのですが、やがて秀長は病気になり、その原因が大職冠のたたりであるという神社側の訴え  
で元に戻ることになり、地名だけが残ることになったのです。

近くには「鎌足神社」がひっそりとたたずんでいます。

ところで、奈良県の地図を広げると不思議なことに気がつきませんか？もちろん地名の話。た  
とえば郡山市内では「美濃庄町」「丹後庄町」「伊豆七条町」・・・共通するのは「美濃」  
（現岐阜県南部）「丹後」（現京都府北部）「伊豆」（現静岡県東部）など、古代の日本で使われ  
ていた国の名前を含んでいることで、奈良時代、大仏造営のために全国から集まった人々が、出  
身地ごとに生活をしながらという説もあるようです。

今年（2023年）は平城遷都1300年。平城京の正門「羅城門」は、奈良市と大和郡山市の境界線が佐  
保川と交わる付近にあり、外国の使節は必ずこの門から入ることになっていました。門の南には、  
中国の映画などによく登場する立派な三つの橋が架けられていたため、「三橋」という地名（現  
下三橋町、上三橋町）が残ったとか。

地名ひとつからでも、夢は大きくふくらみます。そうした目線で、郡山市内を散策するのも楽  
しいですよ。是非お出かけください。

やまごおりやましちょう

## 大和郡山市長プロフィール

氏名 上田 清  
生年月日 昭和26年9月11日

## 経歴

昭和50年3月 京都大学文学部卒業  
昭和50年4月 奈良県立郡山高等学校教諭  
昭和63年4月 奈良県教育委員会事務局 学校教育課指導主事  
平成9年4月 奈良県教育委員会事務局 教職員課課長補佐  
平成13年6月 大和郡山市長 当選  
平成13年7月 大和郡山市長 就任  
平成17年7月 大和郡山市長 二期目  
平成21年7月 大和郡山市長 三期目  
現在に至る